様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２４ 日現在

機関番号：３４４３７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１０６９２

研究課題名（和文）臨床看護師の倫理的行動を明確にする看護倫理ルーブリックの開発

研究課題名（英文）Developing a behavior rubric for the practical model of ethical behavior for nursing

研究代表者
吾妻　知美（Azuma, Tomomi）

大阪成蹊大学・看護学部・教授

研究者番号：９０２９５３８７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、看護師の倫理的行動の評価のための「看護倫理ルーブリック」を開発し、その信頼性と妥当性を検証することであった。まず、４ドメイン（10項目）からなる看護倫理ルーブリックを作成し、154名の看護師を対象に調査した結果、評価者内信頼性（ICC＝0.9）、評価者間信頼性（自己評価と他者評価2名）（ICC＝0.84）、Cronbach's α信頼性係数は全項目では0.963であった。因子分析では「看護倫理の知識」「倫理的行動」「内省」「道徳性」の4因子が抽出された。看護師経験年数と総得点はから基準関連妥当性を確認した結果、看護倫理ルーブリックの信頼性と妥当性が確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　信頼性と妥当性が確認された「看護倫理ルーブリック」を臨床現場で活用することで、看護師が各自の倫理的行動のレベルを容易に確認でき、看護師が個々に不足部分を補うように意識した行動することを可能にする。臨床看護師の倫理的行動のレベル向上により、看護の質の向上寄与する。くわえて、管理者は自組織における看護倫理研修を実行するための学習目標や到達レベルの目安として活用することで、自組織に見合った教育方法の確立への活用を可能にする。

研究成果の概要（英文）：The present study aimed to develop an ethical behaviour rubric for nurses and evaluate its reliability and validity.The ethical behavior rubric was distributed to 241 nurses and 154 wewe completed.
Inter-rater riability had a high interrater agreement(ICC=0.9),and inter-rater reliability had a high interrer agreement(ICC=0.84).The Cronbach's αConstruct validity was 0.96.There was a linear correlation bitween the numbre of years of nursing experience and rubric scores p<0.001.Exploratory factor analysis revealed 10 items loading on four factors.The result of factor analysisi is that Cronbach's α was 0.93 for the first factor,0.83 for second factor0.91 for third factor,and 0.77 for the forth factor.
Our rubric was found to be a valid and relable tool for the assessmeni of ethical bihaviour amang nurses factor.

研究分野：基礎看護学

キーワード：看護倫理　看護師　倫理的行動　看護倫理ルーブリック

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

看護職が専門職としてより質の高い看護を提供するためには、専門的知識と確実な看護技術のみならず、高い倫理性が不可欠である。レスト（J.Rest）は、倫理的行動をとるためには、①倫理的感受性、②倫理的推論、③倫理的判断、④実践の 4 つの要素が重要であることを示している[1)]。したがって、看護倫理研修では、臨床現場におけるさまざまな倫理的問題において倫理的な実践でき看護職の育成を目指した教育が必要になってくる。

看護実践の現場において学習効果の評価では、客観テストによるものが主流を占め「知識・理解」という側面に焦点をあてられ、いわゆるパフォーマンス（関心・意欲、思考・判断）は評価されてこなかった。そこで、われわれは、看護倫理教育を通して習得していくであろう倫理的行動（倫理的感受性、倫理的推論、倫理的判断、実践）はパフォーマンスであることから、ルーブリックで評価することが望ましいと考えた。

ルーブリック（rubric:評価指標）とは、ある課題について、できるようになってもらいたい特定の事柄を配置するための道具として、ある課題をいくつかの構成要素に分け、その要素ごとに評価基準を満たすレベルについて詳細に説明したもので、様々な課題の評価に用いることができる[2)]。また、これまで客観テストでしか評価できなかったパフォーマンス（学習者自身の作品や実演）において、ある程度統一した方法での評価に有効である。このルーブリックは、評価対象となる課題をある程度の尺度内におさまるように、表を作成し整理したもので、こうした基準に基づき、技術を評価すれば、評価による差はそれほど大きくなることはないといわれている。そして、その特徴として、自己評価を促す、自律的な学習態度を培うといわれている。

２．研究目的

本研究の目的は、知識テストやチェックリストでは評価が困難な関心・意欲、思考・判断、技能・表現といったパフォーマンス評価に適した「看護倫理ルーブリック」を開発し、その信頼性をと妥当性を検証し、臨床現場での活用を目指すことである。すでにわれわれは、「看護倫理ルーブリック」（試案）作成し、京都府立医科大学病院において試用した。しかし、この「看護倫理ルーブリック」（試案）の信頼性と妥当性について、すべての看護職の活用に耐えられる精密な検証はしておらず、対象者を増やして一般化できるところまで精度を高める必要があると考える。

３．研究方法

１）「看護倫理ルーブリック」の作成

様々な教育評価に関する先行文献を検討し、ダネル・スティーブンスらの「大学教員のためのルーブリック評価」の作成手順に沿って繰り返し議論し、①学習課題（看護職に期待する行動）、②評価尺度（到達レベル、評価点）、③評価観点（課題が求める具体的なスキルや知識）、④評価基準（具体的なフィードバック）の４つの構成要素を表記した。評価基準については、評価観点ごとに、知識や態度、思考、技能などを、個々の CNS の経験や語り、倫理調整役割のコンピテンシー、VALUE ルーブリック、看護倫理に関する複数の文献から抽出した。評価目標点についても、新人看護師は 10/50、2 年目看護師 20/50、3 年目看護師 30/50、4 年目以上 40/50、副看護師長以上 50/50 と設定した。

作成したルーブリックは京都府立医科大学のキャリアラダー毎に自己評価、他者評価のプレテストを行った。その結果、９割の看護職者が、学習目標の明確化、到達目標の把握につながり、現在の自分のレベルを把握しやすいと回答した一方で、１割の看護職者からは、内容を理解しにくいという意見があり、ルーブリックの一部を修正した。

２）妥当性の検証

・内容妥当性の検証

「看護倫理ルーブリック」の妥当性の内容的妥当性に関しては、第１段階として、表面的妥当性を確認するために、研究協力者に新人でも理解可能な表現になっているか、の検討を進めた。第２段階として、論理的妥当性を検証するために、専門的知見を有する看護倫理の研究者、教育者および看護管理者５人からの意見をもとに内容妥当性の検証。

・プレテストによる表面妥当性の検証

・基準関連妥当性

・因子分析による表面妥当性の検証

４）信頼性の検証

・評価者内・評価者間による評価者間信頼性の検証

・Cronbach's α係数の算出による内的整合性の検証

５）倫理的配慮

本研究は、京都府立医科大学倫理審査委員会の承認（ERB-E-445）を得て実施した。調査への協力は、自由意志にもとづき、回答しなくても不利益を受けることはないこと、結果は統計的に処理し個人が特定されることはないこと、調査票およびデータの管理は厳重に行うことを説明書に明記し、同意書の提出をもって研究同意とした。

４．研究成果

１）看護倫理ルーブリック

開発した看護倫理ルーブリックは表１を参照。

２）信頼性と妥当性の検証

（１）対象者

A 病院の看護倫理研修を受講した看護師 241 名。回収は 161 名（回収率 66.8%）、うち自己評価 2 回、他者評価 2 名全てのデータに欠損がないものを有効回答とし、有効回答数は 154 名（有効回答率 95.6%）であった。また、対象者のキャリアラダーは、ベーシック１（新人看護師）35 名 21.7%、ベーシックⅡ（2 年目看護師）25 名 15.5%、ベーシックⅢ（3 年目看護師）38 名 23.6%、ジェネラリスト（4 年目以降の看護師）16 名 9.9%、サブマネージャー（副看護師長）40 名 24.8%であった。

表1 当院の看護倫理ルーブリック

看護倫理ルーブリック　　所属部署　　名前　　キャリアラダー（ BⅠ ・ BⅡ ・ BⅢ ・ J ・ SM ・ M ）

【課題】倫理的問題を解決に導く方法を学びながら、部署内の倫理的問題に対してリーダーシップをとり、問題解決に向けて倫理的行動を遂行する

【チェック方法】
①評価観点（横列）毎に、自己の現在の状況で当てはまる□にレ点を入れてください
②全ての□にレ点がついた箱の点数があなたの自己評価点数です
③自己評価の点数を記載してください

評価観点 ＼ 評価尺度	5点	4点	3点	2点	1点	評価 自己評価	評価 他者評価
1 基礎知識の 理解	□「看護倫理とは何か」について、知識や実践を融合し、他者に説明・指導ができる □看護者の倫理綱領、倫理原則、インフォームドコンセント、看護実践上の倫理的概念、必要とされる指針や法律に基づいて、他者に説明・指導ができる □意思決定プロセスについて、他者に説明・指導ができる	□「看護倫理とは何か」について、知識や実践を融合し、十分に説明できる □看護者の倫理綱領、倫理原則、インフォームドコンセント、看護実践上の倫理的概念について、十分に説明できる □意思決定プロセスについて、十分に説明できる	□「看護倫理とは何か」について、知識や実践を融合し、概ね説明できる □看護者の倫理綱領、倫理原則、インフォームドコンセント、看護実践上の倫理的概念について、概ね説明できる □意思決定プロセスについて、概ね説明できる	□「看護倫理とは何か」について、名前を挙げて、概ね要点を示すことができる □看護者の倫理綱領、倫理原則、インフォームドコンセントについて、名前を挙げて、概ね要点を示すことができる	□「看護倫理」について、名前を知っている □看護者の倫理綱領、倫理原則、インフォームドコンセントについて、名前を知っている	／5点	／5点
2 分析ツールの理解	□臨床倫理検討シートの3つのステップについて、他者に説明・指導ができる	□臨床倫理検討シートの3つのステップについて、十分に説明できる	□臨床倫理検討シートについて、概ね説明できる	□4分割表（4つの視点）について、名前を挙げて、概ね要点を示すことができる	□4分割表（4つの視点）について、名前を知っている	／5点	／5点
3 前向きな姿勢	□自己研鑽にとどまらず、学習内容を所属部署に還元し、相手の学習を促進できるアドバイザーとして機能している	□看護倫理について学ぶ姿勢を持ち、積極的に院内外の研修会に参加し、後輩の支援者となっている	□看護倫理について学ぶ姿勢をもち、積極的に研修に参加し、研修課題を達成することができる	□看護倫理について学ぶ姿勢をもち、積極的に研修に参加することができる	□看護倫理について学ぶ姿勢をち、研修に参加することができる	／5点	／5点
4 おかしいと気づく 倫理的感受性	□組織で起こる倫理的問題のパターンに気づき、おかしいなと感じたことを医療チームや組織に伝える	□所属部署で起きる倫理的問題のパターンに気づき、おかしいなと感じたことを医療チームに伝える	□おかしいなと感じたことを周囲（主に看護師）に伝える	□「あれでいいのかなー」といった居心地の悪さや不快感などの、漠然とした感覚を周囲（主に看護師）に伝えようとする	□「あれでいいのかなー」といった居心地の悪さや不快感などの、漠然とした感覚をもつが自分の中にとどめる	／5点	／5点
5 多様な価値観の認識	□個人、対象者（患者・家族）、医療チームにおける多様な価値観の存在を認識し、客観性を保持することができる（他者と冷静に対話することができる）	□個人的価値を認識し、対象者（患者・家族）や医療チームにおける価値観の相違について理解を示す	□個人的価値を認識し、専門的価値、対象者（患者・家族）の価値観の相違について、理解を示す	□個人的価値、専門的価値、対象者（患者・家族）の価値観の相違に気づき、自己の考え方の傾向を認識する	□支援を受けながら、個人的価値、専門的価値、対象者（患者・家族）の価値観の相違に気づく	／5点	／5点
6 意図した情報収集 意思決定能力の査定	□対象者（患者・家族）の医学的問題やQOL、周囲の状況に関する問題について、系統立てて情報を得ることができる □対象者（患者・家族）の思いや希望、気がかり、価値観や価値の背景、推定意思を十分に把握している □患者本人と代理意思決定者の意思決定能力について査定できる	□対象者（患者・家族）の医学的問題やQOLに関する問題について情報を得ることができる □対象者（患者・家族）の思いや希望、気がかり、価値観や価値の背景、推定意思の大部分を把握している □対象者（患者・家族）が、説明内容と状況をどのように理解し、どのような考え（選択）を表明しているかを把握している	□対象者（患者・家族）の身体的・心理的・社会的・霊的問題について情報を得ることができる □対象者（患者・家族）の思いや希望、気がかり、価値観・信念を知ることができる □対象者（患者・家族）が説明内容をどのように理解し、どのように状況を捉えているかを把握している	□対象者（患者・家族）の身体的・心理的問題について情報を得ることができる □対象者（患者・家族）の思いや希望、気がかりを知ることができる □対象者（患者・家族）への説明内容と理解の程度を知ることができる	□支援を受けながら、対象者（患者・家族）の身体的・心理的問題について情報を得ることができる □支援を受けながら、対象者（患者・家族）の思いや希望を知ることができる □支援を受けながら、対象者（患者・家族）への説明内容を知ることができる	／5点	／5点
7 問題の分析 倫理原則と関連させた思考	□倫理的問題を明らかにし、（価値の対立があれば）価値の対立を明らかにし、考えうる選択肢に優先順位をつけて説明できる □倫理的問題を倫理原則と照らし合わせて、明確化し、医療チームで共有できる	□自立して、日常のケアにおける倫理的問題を明らかにし、（価値の対立があれば）、価値の対立を明らかにし、考えうる選択肢を列挙することができる □自立して、倫理的問題について、倫理原則を照らし合わせて考え、一定の考えを導き出す	□支援を受けながら、日常のケアにおける倫理的問題を明らかにし、（価値の対立があれば）、価値の対立を明らかにし、考えうる選択肢を列挙することができる □支援を受けながら、倫理的問題について、倫理原則を照らし合わせて考える（支援があれば、一定の考えを導きだせる）	□支援を受けながら、日常のケアにおける倫理的問題を認識し、（価値の対立があれば）、価値の対立について明らかにする □支援を受けながら、倫理的問題について、倫理原則を照らし合わせて考えようとする（一定の考えを導きだすにはかなりの支援が必要）	□支援を受けながら、日常のケアにおける倫理的問題に気づき、（価値の対立があれば）、対立している価値に気づく □支援を受けながら、倫理的問題について、倫理原則を照らし合わせて考えようとする（混乱して一定の考えは導き出せない）	／5点	／5点
8 合意形成 カンファレンス	□医療チームでのカンファレンスにおいて、効果的なファシリテーションを発揮し、患者の最善の利益について検討し、多職種も含めた調整役割を担うことができる □必要時、コンサルテーションシステムを活用し、対象者や周囲の人々の複雑な意思決定プロセスを支援できる	□医療チームでのカンファレンスに参加し、対象者（患者・家族）の意向を代弁し、患者にとって最善の意思決定ができるように、多職種連携を進めていくことができる □指導者もしくは、コンサルタントのカンファレンス参加を調整し、コンサルタントとともに意思決定プロセスを支援できる	□看護チームでのカンファレンスに参加し、対象者（患者・家族）の思いや考えを述べ、患者の最善の利益について検討することができる □カンファレンスに参加した指導者に概ね情報を伝えることができる	□看護チームでのカンファレンスに参加し、対象者（患者・家族）の思いや考えを部分的に述べることができる □支援を受けながら、カンファレンスに参加した指導者に部分的な情報を伝えることができる	□看護チームでの話し合いに参加できる □カンファレンスに参加した指導者の意見に耳を傾ける	／5点	／5点
9 倫理的行動の実践モデル 患者中心の看護	□コンフリクト（対立）をマネジメントし、対象者（患者・家族）の権利や尊厳を守り、患者中心の看護の実践モデルとなっている	□多職種連携を図り、対象者（患者・家族）の権利や尊厳を守り、患者中心の看護を展開している	□対象者（患者・家族）の権利や尊厳を守り、患者中心の看護を展開している	□支援を受けながら、対象者（患者・家族）の権利や尊厳を守り、患者中心の看護を展開している	□支援を受けながら、対象者（患者・家族）に関心を持ち、思いやニーズに応える姿勢をもっている	／5点	／5点
10 振り返り・内省 看護実践につなげる	□倫理的問題に対して、分析結果を医療チームで共有したり、その経験を次の場面に応用している（状況により臨床倫理検討シートを使用する）	□自立的に、倫理的問題について分析した結果を振り返り、今後の課題を明らかにしている（状況により臨床倫理検討シートを使用する）	□支援を受けながら、倫理的問題について分析した結果を振り返り、今後の課題を明らかにしている（臨床倫理検討シートを使用する）	□倫理的問題の対応について、指導者とともに振り返り、今後の課題を見出している	□倫理的問題の対応について、指導者とともに振り返ることができる	／5点	／5点
				（記入日） 平成　　年　　月　　日（自己） 平成　　年　　月　　日（他者）	小計	／50点	／50点

（2）結果

看護倫理のエキスパートと研究に直接かかわらない第 3 者により、項目の適切性や表現の適切性を検討することによって、一定の内容妥当性と表面妥当性が確保できた。看護倫理ルーブリックは、「Ⅰ　知識・理解」「Ⅱ　関心・意欲・態度」「Ⅲ　技能・表現・思考・判断」「Ⅳ　内省」の 4 ドメインを想定して作成したが、因子分析の結果「倫理的感受性・行動」「看護倫理の知識」「論理的思考」「道徳性」の 4 因子に集約された。

評価者内信頼性の級内相関係数（以下、ICC）は 0.962、評価者間信頼性（自己評価と他者評価 2 名）の ICC は 0.844 で、Cronbach's α信頼性係数は、全項目では 0.963 であった。因子分析の結果、「看護倫理の知識」「倫理的行動」「内省」「道徳性」の 4 因子が抽出された。基準関連妥当性として、看護師経験年数（キャリアラダー）別の自己評価の平均点は、1 年目 15.2 点、2 年目 20.2 点、3 年目 26.2 点、ジェネラリスト（4 年目以上）32.5 点、副看護師長 39.1 点であり、看護師経験年数と総得点は相関していた。

＜引用文献＞

１）Rest,J:A psychologist looks at the teaching of ethics.The Hastings center report:9-36,1982.

2）ダネル・スティーブンス他/佐藤浩章監訳：大学教員のためのルーブリック評価入門，玉川大学出版部：2，2014

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 安田美緒、辻尾有利子、服部美景、吉岡とも子、中村尚美、吾妻知美	４．巻 25
２．論文標題 大学病院の副看護部長が倫理的行動をとる上で感じる困難	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本看護管理学会誌	６．最初と最後の頁 216-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Tsujio Yuriko、Yasuda Mio、Hattori Mikage、Yoshioka Tomoko、Nakamura Naomi、Nakata Mitsuko、Teramukai Satoshi、Minemura Yuichi、Azuma Tomomi	４．巻 10
２．論文標題 Developing a behaviour rubric for the practical model of ethical behaviour for clinical nursing	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Nursing Open	６．最初と最後の頁 7382～7393
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/nop2.1992	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 服部美景、安田美緒、辻尾有利子、吉岡とも子、中村尚美、吾妻知美
２．発表標題 A病院における新人看護師の看護倫理教育の評価－「看護倫理ルーブリック」による評価あの変化から－
３．学会等名 第26回　日本看護管理学会学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 吉岡とも子、辻尾有利子、服部美景、安田美緒、中村尚美、吾妻知美
２．発表標題 アドバンス・ケア・プランニングの取り組みによる副看護師長の倫理的行動の変化ー「看護倫理ルーブリック」の自己評価を用いてー
３．学会等名 第26回　日本看護管理学会学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 吾妻知美、辻尾有利子、中村尚美、服部美景、安田美緒、吉岡とも子
２．発表標題 「日本の臨床看護師の倫理的行動」の概念分析
３．学会等名 第26回　日本看護管理学会学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 辻尾有利子、安田美緒、服部美景、吉岡とも子、中村尚美、吾妻知美
２．発表標題 臨床看護師の「看護倫理ルーブリック」の信頼性と妥当性の検証
３．学会等名 第24回日本看護管理学会学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 服部美景、安田美緒、辻尾有利子、吉岡とも子、中村尚美、吾妻知美
２．発表標題 専門看護師が行った看護倫理研修継続による副看護師長の行動の変化
３．学会等名 第24回日本看護管理学会学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 服部美景、辻尾有利子、安田美緒、吉岡とも子、吾妻知美
２．発表標題 看護倫理ルーブリックを用いた副看護師長の倫理的行動の5年間の推移
３．学会等名 第10回　日本CNS看護学会
４．発表年 2023年

１．発表者名 安田美緒、服部美景、辻尾有利子、吉岡とも子、吾妻知美
２．発表標題 他施設の看護師を対象とした「看護倫理ルーブリック」による看護倫理研修の評価
３．学会等名 第10回　日本CNS看護学会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	峯村　優一 (Minemura Yuichi) (80868935)	群馬パース大学・保健科学部・講師 (32309)	
研究分担者	服部　美景 (Hattori Mikage) (60870988)	京都府立医科大学・保健看護学研究科・臨地指導助教 (24303)	
研究分担者	辻尾　有利子 (Tsujio Yuriko) (10870967)	京都府立医科大学・保健看護学研究科・臨地指導講師 (24303)	
研究分担者	吉岡　とも子 (Yoshioka Tomoko) (30870969)	京都府立医科大学・保健看護学研究科・臨地指導講師 (24303)	
研究分担者	安田　美緒 (Yasuda Mio) (60870970)	京都府立医科大学・保健看護学研究科・臨地指導助教 (24303)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関